



保健衛生の目標が延命から健康長寿へと移行したわが国において、高度な歯科衛生士の養成が求められている。これを受けて、四国地区唯一の歯学部を有する徳島大学では、2007(平成19)年4月に全国で5番目となる4年制の歯科衛生士養成課程である歯学部口腔保健学科を設置した。本学科は口腔保健及び社会福祉の立場から健康長寿社会実現に貢献できる人材の養成を目的としており、卒業時には歯科衛生士に加えて社会福祉士の国家試験受験資格も同時に取得できるカリキュラムを有している。

さらに2011(平成23)年4月には、口腔保健に関する豊かな専門的知識・技能及び科学的探求心を身につけた次世代の歯科衛生士教育を担う教育者・研究者、または健康長寿社会の実現に貢献する高度専門職業人の養成を目的に、全国で3番目となる大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻 修士課程を設置し、地域保健や病院等

の臨床の場において活躍する高度専門医療人や教育者・研究者の養成を開始した。本課程の修業年限は2年間であり、高度専門医療人を養成する「臨床系コース」と、歯科衛生士養成機関の大学教員、あるいは大学院博士後期課程の進学を経て研究者を目指す「教育・研究系コース」の2つを備えている。本課程では、専門的口腔ケアや摂食嚥下リハビリテーション、食育に関する研究や、生活習慣病と歯周病との関連、要介護高齢者の誤嚥性肺炎予防に関する研究などを6分野が分担し、高度専門医療人として必要とされる高度な学識や技術の習得に加えて、教育・研究者として基本的研究手法を習得できるように指導している。

修了者は現在、歯科衛生士養成機関である大学や行政・公的機関、大学病院・地域中核病院、歯科関連企業などの多彩な分野で活躍している。

